# おとがわ ふぉ～ゆ～

有 勇 優 友

校長室だより
第 178 号
R6.10.19
文責　中西　勉

## プラスの心で受け止める

### 「せい」から「おかげ」へ

私たちの感情は、日々の出来事をどのような心で受け止めるかに左右されています。毎日の生活を喜びに満ちたものにするか、あるいは不満や苦しみの多いものにするかは、自分自身の心次第なのです。その「自分の心が受け止めたもの」に基づいて、心の中でさまざまな考えや感情が生まれ、それが言動に表されて周囲にも影響を及ぼしています。そこで、まずは「物事の受け止め方」を、改めて意識したいものです。

私たちはつらく苦しい出来事に直面したとき、その原因を周囲の環境や他人に求めて「こんな状況のせいで、つらい思いをしなければならない」「あの人のせいで、自分が苦労しなければならない」といった言葉が心の中に浮かんでくることがあります。そうしたことを考えれば考えるほど、心は暗く、重くなります。

そんなとき、心の中の「何々のせい」という言葉を「何々のおかげ」に置き換えてみると、どうでしょうか。きっと、後に続く言葉が変わるはずです。「この状況のおかげで、『当たり前の日常』のありがたさに気づくことができた」「あの人のおかげで、自分の至らない点に気づくことができた」というように。

このように、どんな出来事、どんな状況をもプラスの心で受け止めることができたなら、心はいつも明るく穏やかで、人生を前向きに歩んでいくことができるのではないでしょうか。

（「道徳を考える月刊誌　ニューモラル　№627」より）

今から数年前、この記事に出合いました。その日以来、私は「毎日このような心持ちで生活したい」と強く思うようになりました。自分に関わる物事の多くは、自分一人ではできません。多くの人の力を借りることができてこそ、うまくことが運びます。自分を取り巻く環境や人々に対して、常に感謝の念を抱くことで、物事をプラスの心で受け止めることができそうです。男川っ子にも、このようなプラスの心を大切にして、毎日の生活を自ら充実したものにしてほしいと願っています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 文化面での男川っ子の活躍

本日、中央総合公園で「おかざきっ子展」「理科作品展」「技術・家庭科作品展」が、岡崎市民会館で「岡崎のハーモニー」が行われました。また、りぶらでは「社会科研究作品展」が開催中です。文化面での男川っ子の活躍が、とても頼もしく感じられました。

**「社会科研究作品展」出展者**
４年　柴田　奏佑さん
５年　杉浦　瑛汰さん

**「岡崎のハーモニー」出演者**
６年　川邉　里緒さん
６年　田辺　紗羅さん
６年　古久根真優さん
６年　波田野柚那さん
６年　大須賀虹菜さん
６年　松川実礼菜さん
伴奏　鈴木　杏子教諭

▲（写真：左から）おかざきっ子展、理科作品展、技術・家庭科作品展